

2003 年度 5 月総会議事録

【日時・会場】 2003 年 5 月 24 日(土) 15:30~17:30 筑波大学附属高校会議室

【参加者(会員)】 安藤裕一 宇都宮徹壺 川井寿裕 熊谷建志 是永大輔 笹原勉 嶋田陽造 竹中茂雄 内藤隆 仲澤眞 中塚義実 堀美和子 依藤正次

【参加者(未会員・オブザーバー)】 大溝和佳 (Next Community@大会本部長) 武田将吾 (Next Community@大会本部長)

【報告書作成者】 熊谷建志

<目次>

< I > 開催挨拶、議長の選出

< II > 報告事項

報告 I. 2002 年度事業報告および決算

報告 II. 2003 年度会員募集について

報告 III. 役員会報告および 2003 年度役員について

< I I I > 審議事項

審議 I. 2003 年度事業計画および予算

審議 II. これからのサロンの方向性について (含規約の検討)

審議 III. その他

< IV > 閉会挨拶

< I > 開催挨拶、議長の選出

2003 会員数：99 名 出席予定者 13 名 (麻生氏は欠席) 委任状提出者 (欠席連絡者) 66 名規約第 12 条に定められた議事の議決の成立要件である『会員の過半数の出席』を満たしており、2003 年度総会 (以下、本総会という) の議事の議決は有効である。議長の選出は規約第 10 条に従い中塚が議事を進行する。
参加者自己紹介 (略)

< II > 報告事項

(プロジェクト関連の連絡として、先行して堀氏より)

ハンドボール Jr 指導者の講演について

6月末から7月中旬までドイツより女子ハンドボールチームの Jr の指導者が来日する。この機会にドイツの Jr の育成について紹介をいただくことを了解いただいた。6月30日～7月2日までの3日間実施する予定。詳細についてはメールリストで紹介したい。育成プログラムに実績のあるクラブなので、サッカーやバスケットなどの球技系スポーツなどにも紹介できると考えている。(堀)

堀さんが現在一人で動いているので、サロンのプロジェクトとして何かサポートできないか考えている。(中塚)

報告Ⅰ. 2002年度事業報告および決算

決算報告(川井)

資料「2002年度決算報告書(案)」を元に前年度会計を説明

収入: 会員 104名分(+2名)の入金完了。

支出: W杯プロジェクトが主な支出。役員会開催のため関西の会員へ旅費を補助している。

会計の補足(中塚)

資料「月例会決算(2002年度)」および「ワールドカップ・プロジェクトⅡ: 会計報告」を元に説明

- ・月例会開催により出た 23,000円を決算の収入項目として繰り入れした
- ・出張サロンを8月、2月に2回実施しているが、通常の月例会とは別会計として取り扱っている。
- ・W杯プロジェクトのシンポジウム関係で発生した支出のうち 114,118円を本会計より補助した。報告書関係は収支0となっている。

事業報告(中塚)

資料「サロン 2002: 2002年度末役員会報告(ダイジェスト版)」を元に前年度事業の概要を説明

会計監査報告(仲澤)

関連する資料閲覧の上、妥当に処理されていると監査した。

報告Ⅱ. 2003年度会員募集について

5/24現在の会員数について報告(中塚)

入会意思表示者(名簿提出) 98名+1名

会費納入者は未確定、昨年よりは納入率は多い。名簿は70数名に送付済み(川井)

入会意思なしで納入された方 4名

退会意思を示したのに納入された方 1名

退会、休会 12名

昨年退会された方で今年度戻られている人もいる。休会という認識でいる。

報告 III. 役員会報告および 2003 年度役員について

2003 年度役員は以下で承認。

代表	中塚義実	
幹事	本多克巳(兼代表代行)、内田正人、宇都宮徹吉、長岡茂、笹原勉	
監査役	仲澤眞	
事務局	会計兼名簿担当	川井寿裕
	ホームページ担当	本多克巳、津田綾女
	メーリングリスト管理人	涌田龍治

< III > 審議事項

審議 I. 2003 年度事業計画および予算

< 予算 >

予算案説明 (川井)

資料「2003 年度予算 (案)」を元に予算案を説明。

収入：基本は前年度実績を元に計画を立てている。会費収入は本資料作成時の会員数 98 名で計算。雑収入はプロジェクト等余剰金より。

支出：同様に前年度実績を元に計画を立てている。通信費、郵送料は会員数 98 名で計算。予備費は欠損が生じた場合の補填分として見込んでいる。

審議 (意見交換)

・次年度繰越金 16 万円に対して予備費 3 万円はマイナス決算を見込んでいることになる。ただ年会費を財源とし、会費収入で運営するという会の趣旨からすれば単年度で収支ゼロとするのがよいのかもしれない。

・2003 年度予算には繰越金を出していない。役員会の検討事項にも現在の単年度会員制から継続した会員制度にする意見が挙がっていた。2004 年度以降のサロンの議論にもつながるかと思う。

- ・プロジェクトも各プロジェクト独立採算で行うべきものであるが、欠損に対する予備費という取り扱いを必要としている。最初の立ち上げ時に助成する金は必要。逆にいえば月例会も黒字であるが、補助という考え方があってもよい。
- ・例えば現在の収支 40 万のうち 3 割が欠損しても次年度につながるように、繰越金はいくらか残すようにすべきと思う。

以上を踏まえ、以下の変更を予算に反映させる

- ・サロンが何をしている会か会計上わかるように支出へ「月例会」を取り扱う項目を作る。
- ・収入「月例会参加費」は年度末にわかることなので起こさない。雑収入として取り扱う。
- ・繰越金は次年度立ち上げ資金（予備費）としてある程度残すようにする。

収入変更項目：

「月例会参加費」は「会費収入」へ組み込み、220,000 円から 270,000 円へ変更
収入計は 450,000 円へ変更

支出変更項目：

「月例会補助（出張会を含む）」を支出の 1）として追加、50,000 円を割り当て
「プロジェクト補助」は 100,000 円へ変更
「予備費」を 30,000 円から 80,000 円へ変更
支出計は 450,000 円へ変更

上記の変更を行った上で 2003 年度会計を承認。

<事業計画>

1). プロジェクト

意見交換

2003 年度プロジェクトについて（新規）

- ・堀氏のハンドボールによる活性化プロジェクト。まったく別の分野の人が集まるのはよい。午前フットサル、午後ハンドボールのように組み合わせも考えられる。以前神宮のフットサルコートでハンドボールも一緒にしたこともあった。
- ・JFL について活性化プロジェクトとする方向もあるが、プロジェクトにしたところでなにをしたらよいか現状まともっていない。

「プロジェクト」の課題

- ・すでにある別のプロジェクト（イベントなど）に対してサロンがプロジェクトとして関わる方法もあると思う。商店街の地域イベントに学生スタッフとして協力すると、その報酬がスポーツ事業・施策の支援にまわるシステムがある。そのようなものを生かせないかと考えている。
- ・プロジェクトという形ではないが、サロン内の人脈から独自でイベントなどを行っている人たちもい

る。

・2002年度は未公認プロジェクトを実施した（SP2002）が、曖昧な関わり方では活動する側とサロンのどちら側にも意味のもつものにならなかったため、今後は行わないほうがよいという報告が役員会でなされた。

「サロン活性化プロジェクト」について

・サロンの後発団体が活発に動いているところがある。例えば新潟のここ2、3年の盛り上がりには、なぜ東京よりも盛り上がるかをこちらで勉強するところがある。ハンドボールやJFLの活性化以外にも自分たちを見つめる機会も必要。

・外へ向けていく従来のプロジェクトとは別のものとなるが、サロン活性化のプロジェクトもできればこの場で立ち上げを宣言したい（賛同者数名）。賛同者の方は発起人として今後の対応を詰めたい。

2). 月例会

5月月例会のディスカッションでテーマを決定する委員会を作ることが検討されたが、「サロン活性化プロジェクト」の中に取り込んで考えたい。当面月例会は従来どおり月1回実施する。（中塚）

意見交換

・出席率に関して、土日いい人は平日だめ、平日よい人は土日がだめという傾向がある、本日は例外だが、Jリーグ開催日ははずすようにしている。

・開催場所に関しては現状カリンカが近くにあるので筑波大附属高校で開催している。会場を借りるにはお金がかかる問題があるが、地区センターや学校の夜間開放などで安く借りられるところがある。地域にはそのようなところが探せばある。

・カリンカは6月で閉店するので、6月以降はどこでやるか検討中。逆にいえば、6月は必ず筑波大附属高校で開催したい。

3). 出張・合宿・お出かけサロン

7～8月サロン主催シンポジウムを毎年行っているが、今後もサロンの柱として行いたい。大阪の本多氏より、8月下旬にアジアフットサル選手権が大阪であるので、それにあわせて行うことを検討している。シンポジウムのテーマは、山下則之氏（サロン会員：Jリーグアカデミー）より、選手の一環指導プログラムについての話がある。（中塚）

意見交換

・先日大学で講師としてよばれ欧州サッカーについていくつかのテーマについて話したが、育成についての話は玄人好みのテーマと思いきや、意外と若い人にとっても反応のよいテーマだと感じた。

・Jリーグアカデミーにサロン関係者が複数いるが、こちらへアクションしてJリーグと連携できると面白いかもしれない。

・アフターW杯についてテーマに取り上げる案もあるが、サロンの後発団体がすでにたくさんしていることを考えると、あえてサロンがする必要がないのかもしれない。会員の反応を見たい。

4). 情報発信

ホームページ、メーリングリストとも情報交換を活性化させたい。W杯のときにW杯の物語を集めるための投稿欄を作ったが、投稿者は少なかった。毎月月例会報告を送付すると感想を中塚宛に返信してくれる会員の方もいるが、それをメーリングリストへ投稿してもらえると活性化につながる。(中塚)

意見交換

・メーリングリストへ月例会報告を流せばメーリングリストへ返信されるので会員の声が集まりやすくなると思う。ただし添付ファイル付きのメールを流すのはネットのマナー上好ましくない。月例会報告はしばらく直接メール送付して、議論はメーリングリストで行うようにするのがよい。

審議Ⅱ. これからのサロンの方向性について (含規約の検討)

サロンの方向性について以下の3点を自由に議論したい。単年度の会員制ではなく継続して関わるための方法や、またコアな会員、アクティブに活動しているがアクティブに関われない会員をつなぐ「緩やかなネットワーク」としてサロン 2002 を考えたい。これらを踏まえた上で 2004 年度からサロンのバージョンアップを考えている。(中塚)

- ・会員登録の仕方
- ・代表者と役員を選出方法
- ・「設立宣言」「規約」「設立宣言解説」の検討

意見交換

・サロン 2002 の'Give And Take'のイメージに「会員は何かを Give できなければならない」という意識が強く働いているのでは？規約には「即座の Output ができなくても、いずれ何らかの形で'Give'をできるなら」とあるが、捉え方は様々だと思う。

・即座に Output する物がなくても、例えば会の中で議事録の作成をしたり出席とるなどの方法で会に貢献する方法もある。別の言い方をすれば、サロンからそのような入り口を用意する（例：「議事録作成者募集。薄謝あり」と公募するなど）方法もある。

・サロンの'Give and Take'は現在の会員制にした時に設立宣言に記述している。知らず知らずのうちにどこかでハードルを高くしている（とみられている）ところもあるのかもしれない。

・単年度で会員の参加の意思を確認しているが、退会届が届くまでは会員とするようにしたい。志を同じくしている人を手放すのはもったいない。単なる会員数確保というより、志を同じくしている人のネットワークであることを重視したい。

・Give and Take にはいろいろな形がある。アクティブに活動できなくてもアクティブに活動している人を支援する（会費を払う）ことも Give である。たとえ会費だけを支払うだけでしか活動に関われないとしても、その人はすでに Give しているという解釈もあるのでは？

・活性化プロジェクトのメンバーが中心となって別の機会に考え直したい。メーリングリストからも会員の意見を寄せる。2004年度以降に向けてサロンをバージョンアップできるように準備したい。

審議Ⅲ. その他

1. 総会の持ち方（委任状の扱い）について

会員の梅本氏より「欠席の場合の連絡を『当該意思表示の文書を持って総会に出席したもの』（第12条第3項）とさせてもらう」という取り扱いについて異議あり。（中塚）

意見交換

- ・欠席の連絡が総会への委任状提出と同じであるという現状の委任制度が、専門的に関わっている人から見れば一般的でない。
- ・来年度以降のサロンの見直しに合わせて総会内容の規約の見直しも行いたい。

2. （連絡事項）会員の徳田氏よりチケット販売について連絡

<Ⅳ>閉会挨拶

以上。